

金子朋樹展 Mother/母なる山河 - 自ずから然り -



《Fog/ 朝霧 - コノハナサクヤヒメ -》2024

ギャラリートーク — 9月6日(土) 13時30分〜14時30分
公開制作① — 〈最上川写生〉 9月6日(土) 15時〜16時30分
公開制作② — 〈最上川写生〉 9月13日(土) 13時30分〜15時
公開制作③ — 10月4日(土) 10時〜12時・13時30分〜15時



最上川美術館
真下慶治記念館

第7回 最上川芸術祭 2025

2025.9.5 (金)〜10.14 (火) 毎週水曜休館
10.2 (木)休館

最上川美術館・真下慶治記念館

〒995-0054 山形県村山市大字大淀 1084-1

TEL 0237-52-3195 FAX 0237-55-2152

E-mail mogamigawa@city.murayama.lg.jp

開館時間 9:00〜17:00

最終入館 16:30



村山市公式HP

最上川美術館

入館料 大人 300 円 / 高校生以下無料 / 団体 (8名以上) 250 円 / 障害者手帳をお持ちの方 150 円

山下の川の恵みの水が大河に流れ出る。水はやがて雲となり山麓に遡上し、再び雨を降らす。安定と永続性を象徴する山、変化と流動性を象徴する水。この相反するムーブメントを時に山中、時に山麓において肌身で感じながら自然への畏敬、水の循環、生命の営みについて思いを馳せている。

古の時代から古今東西、生命の源としての“地母”が崇められてきた。「母なる」もまた自然の姿のメタファーであり、育み、包み、そして守りゆく存在としての表象なのだろう。ルーマニアの宗教学者ミルチャ・エリアーデは、聖なるものが何らかの形で姿を現示されるハイエロファニー (hierophany) を提唱し、また著書の中で「水はすべての創造、すべての形態に先行する。」と記した。

吾妻連峰を源流とし、飯豊連峰から流れ入る置賜白川と合流して山形の広大な盆地に注ぎ込む「母なる最上川」もまた人々の生活と文化を生み、今もなお人々の心の拠りどころとしてあり続ける。私は最上川の地母と創造の原初に思いを巡らせ、私の見つめるハイエロファニーを静かにたゆたう川面の姿に託し、表したいと思う。

金子朋樹